
久留島浩年譜

1954年（昭和29年）生

1977年（昭和52年）

4月1日 東京大学文学部研究生（昭和53年3月31日まで）

1983年（昭和58年）

9月30日 東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程単位取得退学

10月1日 東京大学文学部助手

1985年（昭和60年）

4月1日 千葉大学教育学部講師

同上 千葉大学大学院教育学研究科担当（平成10年3月31日まで）

1987年（昭和62年）

1月1日 千葉大学教育学部助教授

1997年（平成9年）

10月1日 国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授（併任）（平成10年3月31日まで）

1998年（平成10年）

4月1日 国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授

同上 千葉大学教育学部助教授（併任）（平成11年3月31日まで）

1999年（平成11年）

4月1日 総合研究大学院大学文化科学研究科助教授（併任）（平成15年3月15日まで）

2001年（平成13年）

4月1日 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター助教授（併任）（平成15年3月31日まで）

2003年（平成15年）

2月1日 国立歴史民俗博物館歴史研究部教授

3月12日 東京大学博士（文学）取得

3月16日 総合研究大学院大学文化科学研究科教授（併任）（平成16年3月31日まで）

2004年（平成16年）

4月1日 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館歴史研究部教授

同上 総合研究大学院大学担当教授（文化科学研究科担当）（任命）（令和2年3月31日まで）

2006年（平成18年）

4月1日 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館歴史資料センター長（併任）（平成19年6月30日まで）

5月1日 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員（任命）（平成21年3月31日まで）

2007年（平成19年）

7月1日 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館博物館資源センター長（併任）（平成21年3月31日まで）

2010年（平成22年）

4月1日 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長（館外担当）（併任）（平成24年3月31日まで）

同上 人間文化研究機構保有個人情報管理委員会委員（任命）（平成24年3月31日まで）

同上 人間文化研究機構企画・連携・広報室員（任命）（平成24年3月31日まで）

同上 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員（任命）（平成24年3月31日まで）

2014年（平成26年）

4月1日 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館館長

2020年（令和2年）

3月31日 任期満了により退職

委嘱関係

〈自治体史〉

- ・大阪府泉南郡熊取町史編纂委員
- ・鏡野町史刊行委員会委員
- ・倉敷市史研究会員（編纂・執筆）
- ・小平市史編さん委員会委員
- ・田無市史編さん委員会委員
- ・千葉県史料研究財団千葉県史近世史部会専門員
- ・千葉県史料研究財団千葉県史近世史部会委員・千葉県史料研究財団千葉県史近世史部会部会長
- ・千葉市史編集委員会委員
- ・山梨県史近世部会専門委員

〈大学〉

- ・植草学園大学非常勤講師（2008～2013年度）
- ・シカゴ大学講師（くずし字ワークショップ，2004年度）
- ・千葉大学非常勤講師（千葉大学総合科目）（2000年～2001年）
- ・千葉大学文学部非常勤講師（2007年度）
- ・チューリッヒ大学非常勤講師（First Annual Kuzushiji Workshop Reading Japanese Images，2009年）
- ・東北学院大学非常勤講師（2011年度）
- ・南開大学講師（日本学科集中講義）（2012年12月）
- ・新潟大学人文学部非常勤講師（日本史，近世史特殊講義）（2001年度）
- ・立教大学大学院兼任講師（2012～2013年度）

ほか、お茶の水女子大学非常勤講師・神戸大学非常勤講師・聖心女子大学非常勤講師・法政大学文学部非常勤講師・東京大学非常勤講師・北海道大学文学部非常勤講師などを歴任

〈博物館等〉

- ・江戸東京博物館運営委員会委員（2017～2019年）
- ・佐賀大学研究センター評価委員（2014年度）
- ・千葉市文化財保護審議会委員（2003～2007年）
- ・東京都港区新郷土資料館基本構想検討委員会委員（2004～2005年）
- ・富里市文化財保護審議会委員（2006～2008年）
- ・長崎市出島史跡整備審議会展示小委員会委員（2005～2012年）
- ・長野県立歴史館協議会委員（2017～2020年）
- ・日本銀行金融研究所貨幣博物館諮問委員（2011～2020年）
- ・港区立新郷土資料館開設準備委員会委員（2012～2019年）
- ・八千代市立郷土博物館協議会委員（2014～2020年）

〈選考委員等〉

- ・ICOM 京都大会 2019 組織委員会監事（2017～2019年）
- ・味の素食の文化センター評議員（2014～2020年）
- ・鎌ヶ谷市国史跡下総小金中野牧跡整備基本設計検討委員会委員（2015～2016年）
- ・佐倉市総合計画審議会委員（2015～2017年）
- ・佐倉市人権委員会（2011～2014年）
- ・千葉県立佐倉高等学校におけるスーパーサイエンススクール運営指導委員会委員（2014～2020年）
- ・千葉県生涯学習審議会委員・千葉県社会教育委員（2017～2020年）
- ・日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会委員（2017年）

-
- ・日本郵便郵便切手アドバイザーグループ委員（2014～2020年）
 - ・港区立新郷土資料館等複合施設基本設計事業者選考委員会委員（2013年）
 - ・水木十五堂賞選考委員会委員（2014～2020年）

ほか、千葉市教育振興財団評議員などを歴任

〈その他〉

- ・佐倉市教育委員会夏期社会科研修講師（2003年）・新任教員研修講師（2004年）
- ・歴史民俗資料館職員研修講師（2003・2004年委員）
- ・国立歴史民俗博物館主催「先生のための歴博講座」責任者（2003・2004年）
- ・国立歴史民俗博物館振興会「超初心者のための古文書講座」講師（2004年）
- ・国立歴史民俗博物館友の会講座「初級古文書」講師（2008年）

ほか、佐倉市民カレッジ講師などを歴任

久留島浩主要業績目録

I 著書（編著・共著・監修）

- 『日本近世史論叢』下巻（共著／大口勇次郎・沼田哲・宮崎勝美・吉田伸之ほか6名），吉川弘文館，1984年 pp.139-179，「幕領における郡中入用と組合村入用について一村をこえた入用の一つとして」
- 講座『日本の社会史』第4巻（負担と贈与）（共著／吉村武彦・峰岸純夫・小田雄三・深谷克己ほか4名），岩波書店，1986年 pp.274-317，「近世の軍役と百姓」
- 『日本都市史入門（I 空間）』（共著 編者／高橋康夫・吉田伸之，共著者／伊藤毅・藤田裕嗣・宮本雅明・宮崎勝美ほか2名），東京大学出版会，1987年 pp.107-130，「祭礼の空間構造」
- 『大名領国を歩く』（共著 編者／永原慶二，共著者／則竹雄一・朝倉直美・佐藤博信・市村高男ほか9名），吉川弘文館，1993年 pp.300-328，「近世の村の高札」
- 『近世房総地域史研究』（共著 編者／吉田伸之・渡辺尚志，共著者／吉田伸之・原直史・富善一敏・針谷武志），東京大学出版会，1993年 pp.215-256，「下総における幕末・維新期の一村方騒動について—千葉県犢橋村稲干場一件—」
- 『歴史の道・再発見』第5巻「渡来文化から長州戦争まで」（共著 編者／井ヶ田良治・塚田孝ほか4名，共著者／吉田晶・山根正明・竹林栄一・池内敏ほか4名），フォーラム・A，1994年 pp.149-180，「第5章 戦地への道—長州戦争と備中・美作幕領の百姓」
- 『近世の社会集団—由緒と言説』（共編著／吉田伸之），山川出版社，1995年 pp.3-38，「村が『由緒』を語る時」
- 『日本通史』第15巻（共著／藤田覚・平川新・吉田伸之・大口勇次郎ほか5名），岩波書店，1995年 pp.71-110，「百姓と村の変質」
- 『近世の社会的権力—権威とヘゲモニー』（共編著／吉田伸之），山川出版社，1996年 pp.273-292，「『中間支配機構』を「社会的権力」論で読み直す」
- シリーズ近世の身分的周縁第5巻『支配を支える人々』（編著），吉川弘文館，2000年 pp.1-20，「支配をささえる人々」，pp.133-170，「牧士」
- シリーズ近世の身分的周縁第6巻『身分を問い直す』（共編著／高埜利彦・塚田孝・横田冬彦・吉田伸之），吉川弘文館，2000年 pp.49-72，「『身分的周縁』から武士身分を問う」
- 『21世紀の文化行政』（共著／地方史研究協議会編），名著出版，2001年 pp.33-63，「これからの歴史系博物館について」
- 『近世幕領の行政と組合村』（単著），東京大学出版会，2002年
- 『歴史展示とは何か—歴博フォーラム 歴史系博物館の現在・未来』国立歴史民俗博物館編（共著／小島道裕・金子淳・吉田憲司・青木俊也・岩城卓司・竹内有里），アム・プロモーション，2003年
- 『展望日本歴史15 近世から近代へ』（共編著／奥村弘），東京堂出版，2005年
- 歴史学研究会編『日本史史料 [3] 近世』（分担執筆），岩波書店，2006年 pp.105-119，「第二章第三節 近世村落の成立と農民」，pp.265-278，「第三章第二節 飢饉と一揆・打ちこわし」，pp.365-387，「第四章第一節 地域社会の形成」
- 『牧の考古学』（共著／入間田宣夫・谷口一夫編），高志書院，2008年 pp.91-120，「近世下総の牧に関する一考察」
- 『アジアの国民国家構想』（共編著／趙景達），青木書店，2008年
- 『歴史展示における『異文化』表象の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第140集（共編著／小島道裕），国立歴史民俗博物館，2008年，pp.1-19，「研究の経緯と成果・課題」，pp.213-219，「『異文化』を展示すること・『自文化』を展示すること—歴博と大英博物館の「対外関係」の展示プランを比較して—」
- 『第3展示室（近世）ができるまで 国立歴史民俗博物館総合展示リニューアルの記録』（編著），国立歴史民俗博物館，2009年

-
21. 『文人世界の光芒と古都奈良一大和の生き字引・水木要太郎』(共編著／高木博志・高橋一樹) 思文閣出版, 2009年, pp.3-31, 「総論」(共著／高木博志・高橋一樹), pp.201-267, 「水木要太郎と集古会—水木コレクションの「歴史的背景」をさぐるために—」
22. 『国民国家の比較史』(共編著／趙景達), 有志舎, 2010年, pp.329-374, 「近世後期の地域社会と民衆運動—19世紀の美作地方を中心に—」
23. 『「韓国併合」100年を問う—2010年国際シンポジウム—』(共著／国立歴史民俗博物館編), 岩波書店, 2011年, pp.287-300, 「画像資料と歴史認識—「朝鮮通信使一行は鶏どろぼう」をめぐる—」
24. 『薩摩・朝鮮陶工村の四百年』(共著／須田努・趙景達), 岩波書店, 2014年, pp.1-57, 「近代の苗代山」
25. 『描かれた行列: 武士・異国・祭礼』(編著) 東京大学出版会, 2015年
26. 『講座明治維新 第11巻 明治維新と宗教・文化』(共著／明治維新史学会編), 有志舎, 2016年 pp.29-66, 「古物(古器旧物)」から「文化財」へ」

II 論文・研究ノート等

1978年

- 「甲州市川代官所管下の天領における郡中惣代の機能について(1)」, 『信濃』第30巻5号, pp.35-48
「甲州市川代官所管下の天領における郡中惣代の機能について(2)」, 『信濃』第30巻6号, pp.27-41

1979年

- 「史料紹介 甲州の幕領における手代と郡中惣代」, 『論集さんせい』第2号, pp.68-74

1981年

- 「長州戦争と備中の幕領—幕領における中間支配機構の一考察」, 『史学雑誌』第90編9号, pp.1-45

1982年

- 「備中の幕領における郡中惣代制について」, 『岡山県史研究』第8号, pp.28-70
「直轄県における組合村—惣代庄屋制について」, 歴史学研究会1982年大会報告別冊特集『民衆の生活・文化と変革主体』, pp.107-119

1983年

- 「最近の近世村落史研究から何を学ぶか(研究ノート)」, 『歴史科学と教育』第2号, pp.1-10

1984年

- 「村と村との関係—組合村(村連合)研究ノート—」, 『歴史公論』1984年9月号, pp.63-72

1986年

- 研究ノート「盛砂・蒔砂・飾り手桶・箒—近世における「馳走」の一つとして—」, 『史学雑誌』第95巻8号, pp.60-92
「近世における祭りの『周辺』」, 『歴史評論』439号, pp.12-24

1991年

- 「近世後期の「地域社会」の歴史的な性格について—幕領における郡中入用・組合村入用の検討から」, 『歴史評論』499号, pp.2-28

1992年

- 「幕末維新时期における『地域社会』と『かわた』村」, 『部落問題研究』117号, pp.54-82
「自由民権家・桜井静」, 『千葉史学』20号, pp.102-116

1993年

- 「『地方税』の歴史的な前提—郡中入用・組合村入用から民費, 地方税へ—」, 『歴史学研究』652号, pp.12-25

1995年

- 「大学の教員養成系学部における『専門性』について」, 『歴史教育・社会科教育年報』19, pp.150-164

1996年

- 「近世史研究と近代史研究をつなぐために」, 『自由民権』9号, pp.47-51

1997年

- 「二つの「朝比奈」」, 浮世絵を読む6『国芳』, 朝日新聞社, pp.51-60

1999年

「19世紀における相給村落の内と外—上総国殖生郡立木村高橋家『御用留』を素材として—」, 『千葉県史研究』7 別冊(近世特集号『東上総の近世』), pp.136-162

「歴史系博物館のあり方をめぐって」, 『ヒストリア』167, pp.17-26

2001年

「博物館で歴史教育を考える」, 『神奈川県高等学校社会科歴史分科会研究報告』29, pp.69-72

2002年

「明治初年の東海道宿駅助郷勤埋金一件」, 『千葉県史研究』10 別冊 近世特集号(房総の近世1), pp.109-131

「史料と歴史叙述—歴史系博物館における『歴史展示』」, 歴史学研究会編『歴史学における方法的展開 現代歴史学の成果と1980-2000年』青木書店, pp.325-342

「博物館で歴史教育を考える」, 『房総史学』, pp.6-21

「潟湖開発関係絵図の基礎的研究「紫雲寺潟絵図」(享保六年五月紫雲寺湯潟落堀につき地境絵図)をめぐって(1)」, 『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信第17号』, pp.6-8

「潟湖開発関係絵図の基礎的研究「紫雲寺潟絵図」(享保六年五月紫雲寺湯潟落堀につき地境絵図)をめぐって(2)」, 『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信第18号』, pp.8-9

「潟湖開発関係絵図の基礎的研究「紫雲寺潟絵図」(享保六年五月紫雲寺湯潟落堀につき地境絵図)をめぐって(3)」, 『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信第19号』, pp.6-8

「潟湖開発関係絵図の基礎的研究「紫雲寺潟絵図」(享保六年五月紫雲寺湯潟落堀につき地境絵図)をめぐって(4)」, 『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信第21号』, pp.12-13

「古文書デジタルイメージング:一周波数フィルタによる可読性改善—(共著/宮田公佳)」, 『画像電子学会年次大会予稿集』30(0), p.5

2003年

「長崎くんち考—城下町祭礼としての長崎くんち—」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』第103集, pp.79-115

「ボランティアに関する実践報告—企画展『異界万華鏡—あの世・妖怪・占い—』を事例として」(共著/内田順子, 竹内有里, 小瀬戸恵美), 『国立歴史民俗博物館研究報告』第109集, pp.359-387

「博物館における調査・研究・展示へのデジタルイメージング技術の応用—日本近世史研究の立場から—」 『日本写真学会誌』第66巻第2号, pp.132-137

2004年

「Hyakusho and Military Duty in Early Modern Japan」(翻訳/Drake Langford), 『ACTA ASIATICA』87号(Studies in Early Modern Japanese History), 東方学会(The Institute of Eastern Culture), pp.1-34

「国立歴史民俗博物館における博物館教育の試み」, 『歴史展示のメッセージ』, アム・プロモーション, pp.233-262

2005年

「移行期の民衆運動」, 歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座7 近世の解体』, pp.163-198

「19世紀における日本の『発見』—民衆運動と文化の表象—」, 『人間文化研究機構連携研究『ユーラシアと日本:交流とイメージ』プレ・シンポジウム報告書』, 人間文化研究機構, pp.30-52

2006年

「崎陽諏訪明神祭祀図の魅力」, 『秘蔵!長崎くんち絵巻 崎陽諏訪神社祭祀図』, 長崎文献社, pp.7-14

「展示の理解の評価に関する検討」(共著/安達文夫・竹内有理・小島道裕), 『国立歴史民俗博物館研究報告』第130集, 国立歴史民俗博物館, pp.1-20

「歴史展示だってできるコミュニケーション」『琵琶湖博物館研究調査報告 第24号 展示室におけるコミュニケーション—展示と人・人と人—』, pp.56-76

2007年

「プレーメン海外博物館蔵『江州蒲生郡庄村高木村検地図巻』について」(共著/宮坂正英), 『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』, pp.27-46

「連携研究，何が問題なのか」（共著／篠原徹・斎藤清明）・「研究内容と目標」・「現状と課題 連携研究のあり方」、『論壇人間文化』（1），pp.28-53・54-68・69-85

2008年

「近世下絵の牧に関する一考察」，入間田宣夫・谷口一夫編『牧の考古学』，高志書院，pp.91-120

2009年

「国立歴史民俗博物館第3展示室リニューアルに伴う試行展示とその評価に関する考察」（共著：井上由佳），『国立歴史民俗博物館研究報告』第150集，pp.149-178

2010年

「歴史系博物館で『異文化』を考える—国立歴史民俗博物館のささやかな試み—」『平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業 博物館における海外交流史展示を活用した異文化理解教育プログラムの開発・整備～長崎歴史文化博物館の国際交流基盤づくりの一環として～実施報告書』，pp.45-93

2011年

「幕末維新期の『武士』—武力と身分—」（共著／久留島浩・三野行徳），趙景達・須田努編『比較史的にみた近世日本—「東アジア化」をめぐる—』，東京堂出版，pp.163-203

「近世近代移行期の小平市域を考える」，『小平の歴史を拓く 市史研究』第3号，小平市，pp.18-24

2012年

「行列にみる近世の『異国人』認識」，野林厚志編『東アジアの民族イメージ—前近代における認識と相互作用—』，国立民族学博物館調査報告104号，pp.103-122

「災害時における歴史文化資料の救済と保全—地域の歴史・文化資料とどのように向き合うか—」『平成24年度 第34回文化財の虫菌害・保存対策研修会』，pp.43-56

2014年

「地域の歴史・文化資料とどのように向き合うか」，奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』，東京大学出版会，pp.104-128

2015年

「百姓一揆と都市騒擾」，『岩波講座 日本歴史』第13巻，岩波書店，pp.209-250

2016年

「博物館や大学における「歴史資料」の保全と活用をめぐる現状と課題」，奥村弘・内田俊秀・天野真志編『文化財防災体制についての国際比較研究』報告書，科学研究費補助金基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」研究グループ・神戸大学人文学研究科，pp.50-54
「稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会』書評報告」，『熊本大学文学部附属永青文庫研究センター年報』第7号，pp.12-26

2019年

「歴史から何が学べるか？江戸時代との対話」，『地球システム・倫理学会会報』第14号，pp.60-69

2020年

「地域の歴史や「負の歴史」と向き合う努力 第2章 歴史系博物館の可能性—地域の歴史と向き合う・真摯に歴史と向き合う」，岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』，株式会社人文書院，pp.37-72

Ⅲ 自治体史・資料集等

- 『大月市史』史料編（共著），山梨県大月市，1976年
- 『岡山県史』近世編第1巻（共著／人見彰彦），岡山県，1984年 pp.116-164「第1章第1節 備中諸藩の成立」
- 『岡山県史』近世編第3巻，岡山県，1987年 pp.127-151「第1章第4節 幕領の支配構造と諸政策」 pp.510-543，「第4章第4節2 村の騒動」 pp.544-550「第4章第4節3 くすぶる各地の騒動」
- 『岡山県史』近世編第4巻，岡山県，1991年 pp.423-477「第4章第3節 長州戦争と倉敷代官所管下の備中・美作幕領」

5. 『京都冷泉町文書』第1巻～第6巻（共編／吉田伸之・菅原憲二・西坂靖・杉森哲也・小川保），思文閣出版，1991～1998年
6. 『熊取町史』第1巻・史料編Ⅰ，熊取町，1992年（中家文書の一部翻刻）
7. 『富士見町史』上巻，長野県富士見市，1993年 pp.1047-1084「第10章 桑畑一件と山留強訴」，pp.1085-1130「第11章 村方騒動」，pp.1220-1250「第14章 宗教」
8. 『田無市史』第1巻 中世・近世史料編，田無市，1994年 pp.161-222「第2編第2章1 領主支配」，pp.637-651「第5章 玉川上水と田無用水」，pp.801-853「第8章 宗教と文化」，pp.856-924「第9章 幕末維新期の田無村」（1（部分執筆）～3）
9. 『倉敷市史』第9巻 資料編 古代・中世・近世（上），倉敷市，1994年
10. 『田無市史』第3巻 通史編，田無市，1995年 pp.445-451「第4編第3章第5節 田無村の寺院と信仰」，pp.452-459「第6節 田無村の神社」，pp.519-577「第5章 農民支配の動向と農民の文化」
11. 『熊取町史』第2巻史料編2，熊取市，1995年
12. 『倉敷市史』第10巻 近世（下）史料編，倉敷市，1997年 pp.3-57「1 幕府領支配のしくみ」pp.57-106「2 掛屋と郷宿」
13. 『千葉市史 資料編8 近世』，千葉市，1997年
14. 『千葉県の歴史』資料編近世2 安房（共編著），千葉県史料研究財団，1999年 第1部「はじめに」・1・3，第2部「はじめに」「あとがき」と所収史料の一部解説
15. 『千葉県の歴史』資料編近世3 上総1（共編著），千葉県史料研究財団，2001年 pp.605-704「第5章 領主支配と村々―旗本知行所―」
16. 『千葉県の歴史』資料編近世5 下総1（共編著），千葉県史料研究財団，2003年 pp.125-162「第1章 第4節 流作場の開発」，pp.255-276「第2章第5節 小間子牧の開発」
17. 『山梨県史』資料編13 近世6下 全県（共編著），山梨県，2004年 「第5章 塩と廻米」のうち「第2節 廻米」
18. 『千葉市史』史料編9 近世（責任編集），千葉市，2004年
19. 『山梨県史』通史編3 近世1，山梨県，2006年 pp.459-485「第4章近世の村 第6節 村を越えた政治の広がり―18世紀後半以降の地域運営―」
20. 『千葉県の歴史』資料編近世1（房総全域）千葉県史料研究財団，2006年 pp.129-161「第1章第3節 幕領と組合村」，pp.972-1039「第7章第4節 東海道の助郷をめぐる問題」
21. 『千葉県の歴史』通史編近世1（監修），千葉県史料研究財団，2007年 pp.3-31「第1編第1章 総説・房総の近世」，pp.77-98「第1編第3章 安房の地域特性」，pp.196-211「第2編第1章 総説・支配の諸相1」，pp.358-377「第3編第1章 総説・支配の諸相2」，pp.378-411「第3編第2章 幕府領」
22. 『千葉県史 通史編 近世2』（監修），千葉県，2008年
23. 『鏡野町史 史料集』，鏡野町，2008年 pp.130-607「第3章 近世の鏡野」（第1・3・7節）
24. 『鏡野町史 通史編』，鏡野町，2009年 pp.419-446「第5章第3節 幕府領の農民支配と鏡野」，pp.499-505・511-532「第5章第6節 幕末の動乱と鏡野」
25. 『小平市史 近世編』，小平市，2012年 pp.747-761「第3章第6節1 助郷反対運動」，pp.780-807「第3章第7節 品川県庁に押しかける―品川県の成立と御門訴事件―」

IV 報告書等

1. 『平成13年度 神奈川県青少年総合研修センター調査研究報告書 地域活動・ボランティア活動をする青少年等の意識調査報告書～青少年のボランティア活動に関するアンケート調査～』，神奈川県青少年総合研修センター，2002年，pp.1-13・15-21
2. 『れきはくにいこうよ―国立歴史民俗博物館教育プロジェクト活動報告1998～2000―』（分担執筆），国立歴史民俗博物館，2002年
3. 『れきはくにいこうよ―国立歴史民俗博物館教育プロジェクト活動報告2001―』（分担執筆）国立歴史民俗博物館，2003年

-
4. 『れきはくにいこうよ—国立歴史民俗博物館教育プロジェクト活動報告 2002—』(分担執筆), 国立歴史民俗博物館, 2003年
 5. 『新潟県北蒲原郡紫雲寺町神田英男家文書目録』, 東京大学史料編纂所画像史料解析センター・国立歴史民俗博物館共編, 2004年
 6. 『れきはくにいこうよ—国立歴史民俗博物館教育プロジェクト活動報告 2003—』(分担執筆), 国立歴史民俗博物館, 2005年
 7. 『国際シンポジウム 韓国における国民国家をめぐる研究状況と課題』, 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館久留島研究室, 2006年 pp.2-9「開会挨拶」, pp.6-11「趣旨説明『国民国家の比較史的研究』の目的と意義」
 8. 『国際シンポジウム「ユーラシアと日本 交流と表象の現状と課題」報告書』(編著), 人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」プロジェクト, 2006年 pp.6-10「趣旨説明『ユーラシアと日本:交流と表象』のシンポジウム開催にあたって」
 9. 人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本の交流に関する総合的研究」『国際ワークショップ 19世紀中東・バルカンへの新しいアプローチ—オスマン帝国における近代国家の形成—報告書』, 「ユーラシアと日本:交流と表象」研究プロジェクト「国民国家の比較史的研究」班, 2007年
 10. 人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」『「ユーラシアと日本:交流と表象」ウィーンシンポジウム報告書』, 「ユーラシアと日本:交流と表象」研究プロジェクト「国民国家の比較史的研究」班, 2007年
 11. 人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」『「ユーラシアと日本:交流と表象」2006年度国際シンポジウム「境界の形成と認識—移動という視点」予稿集』, 国立歴史民俗博物館, 2007年
 12. 『国際シンポジウム「ユーラシアと日本 境界の形成と認識」報告書』(編著), 人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」プロジェクト, 2008年 p.8「趣旨説明『ユーラシアと日本:交流と表象』2006年度国際シンポジウム開催にあたって」
 13. 人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」『「ユーラシアと日本:交流と表象」シンポジウム「ユーラシアと日本 いまなぜ国民国家か 国民国家の過去・現在・未来」予稿集』, 「ユーラシアと日本:交流と表象」研究プロジェクト「国民国家の比較史的研究」班, 2008年
 14. 人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」『「ユーラシアと日本:交流と表象」シンポジウム「ユーラシアと日本 パフォーマンスと文化 ユーラシアにおける交流と表象」予稿集』, 国立歴史民俗博物館, 2009年
 15. 人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」『「ユーラシアと日本:交流と表象」ハノイ・シンポジウム報告書』, 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 2009年
 16. 人間文化研究機構連携研究「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」『「ユーラシアと日本:交流と表象」シンポジウム「ユーラシアと日本 交流と表象の総括と課題」予稿集』, 国立歴史民俗博物館, 2010年
 17. 『国際シンポジウム「ユーラシアと日本 パフォーマンスと文化—ユーラシアと日本における交流と表象—」報告書』(編著), 人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」プロジェクト, 2010年 pp.127-135「コメントと討論」
 18. 『第5回シーボルトコレクション国際会議 講演要旨集』(編著), 人間文化研究機構日本関連在外資料調査研究プロジェクト, 2011年
 19. 『外国で「日本」を展示するということ—カナダ文明博物館(オタワ)の特別展示「伝統と革新の国, 日本」をめぐる—』(編著), 歴博国際シンポジウム成果報告書, 2013年, pp.1-14, 「海外で江戸時代の技術・生活文化を展示する試み—国際シンポジウム「海外で「日本」を展示するということ—カナダ文明博物館(オタワ)の特別展示「伝統と革新の国, 日本」をめぐる—」の趣旨説明をかねて—」, pp.53-58, 「日本近世の武士の実態と近年の「サムライジャパン」をめぐる—」
 20. 『英国とアイルランドの日本関連コレクションの現状とデータベース化に係る調査報告書』(編著), 国立歴史民俗博物館, 2014年
-

21. 国立歴史民俗博物館資料目録11『伊能茂左衛門家資料目録』, 国立歴史民俗博物館, 2014年
22. 国際シンポジウム『シーボルトが紹介しなかった日本—欧米における日本関連コレクションを使った日本研究・日本展示を進めるために—』予稿集(編著), 国立歴史民俗博物館, 2014年
23. 『戦争をめぐるパブリックヒストリー—ドイツ・日本 歴史博物館の対話—』, 国立歴史民俗博物館, 2017年 pp.24-47, 「『日独修好150年の歴史』の展示で考えたこと—負の歴史を展示するということ—」
24. 国際シンポジウム報告書『国際シンポジウム「シーボルト・コレクションから考える」』(編著/日高薫, ブルーノ・リヒツフェルト, 原田博二, 青山宏夫, 佐々木守俊, 櫻庭美咲, 大久保純一, 宮坂正英, 平田由紀), 国立歴史民俗博物館, 2018年

V 書評・書誌紹介, 学会動向

1. 「新刊紹介 柚木 学著『近世海運史の研究』」, 『史学雑誌』第88編8号, pp.105-106, 1979年
2. 書評「佐々木潤之介著『世直し』(岩波新書, 1979年刊)」, 『歴史学研究』492号, pp.25-31, 1981年
3. 「新刊紹介 『備前児島野崎家の研究—ナイカイ塩業株式会社成立史—』」, 『史学雑誌』第91編11号, pp.99-101, 1982年
4. 「学会動向 1982年の歴史学会・回顧と展望 日本近世『村落史』」, 『史学雑誌』第92編9号, pp.73-77, 1983年
5. 「新刊紹介 山崎隆三著『近世物価史研究』」, 『史学雑誌』第93編3号, pp.383-385, 1984年
6. 「新刊紹介 奥富敬之・久保貴子編著(白濱町)『安房白濱町近世史料集I:杖珠院文書』」, 『史学雑誌』第95編2号, pp.252-253, 1986年
7. 「新刊紹介 木村 礎著『村の語る日本の歴史近世編(1), (2)』」, 『史学雑誌』第94編3号, pp.382-383, 1986年
8. 「新刊紹介 『羽曳野市史』第5巻史料編3(近世)」, 『史学雑誌』第93編11号, pp.106-108, 1986年
9. 「千葉市史編纂委員会編集『絵にみる図でよむ千葉市図誌』上・下巻」, 『ちば—教育と文化』39号, 千葉県教育文化センター編集出版委員会, pp.122-125, 1994年
10. 「討論要旨(〈シンポジウム〉社会的権力)(第93回史学会大会報告記事)」, 『史学雑誌』第104編12号, pp.94-95, 1995年
11. 「新刊紹介 横浜開港資料館・横浜近世史研究会編『19世紀の世界と横浜』」, 『史学雑誌』第104編7号, pp.108-109, 1995年
12. 「新刊紹介 村上直編『幕藩制社会の地域的展開』」, 『史学雑誌』第106編11号, pp.126-129, 1997年
13. 「大会報告批判 1982年度関東近世史研究会大会 沢登報告についての二, 三の感想」, 『関東近世史研究』15号, pp.66-68, 1983年
14. 「近世史部会(1999年度歴史学研究会大会報告批判)」, 『歴史学研究』731号, pp.39-41, 1999年
15. 書評「山本英二著『慶安御触書成立試論』」, 『国史学』175, pp.81-90, 2002年
16. 書評「藪田貫著『国訴と百姓一揆の研究』(1992年5月刊, 校倉書房)」, 『日本史研究』381号, pp.71-80, 1994年
17. 書評「大石学著『享保改革の地域政策』(吉川弘文館, 1996年刊)」, 『史鏡』33号, pp.89-97, 1996年
18. 「書評と紹介 『多摩市史』資料編2 近世 社会経済・『多摩市史』通史編 近世」, 『関東近世史研究』44号, 1999年
19. 書評と紹介「大谷貞夫著『江戸幕府の直営牧』」, 『国史学』第208号, 2012年
20. 「尾崎真理「中世中後期における幕府の代官配置原則」について」, 『ヒストリア』第278号, pp.76-92, 2020年

VI その他

1984年

『大百科事典』, (事典項目)「郡中惣代」「倉敷」, 平凡社

1985年

-
- 「編集後記」『「なかよしの家」保育園二十年のあゆみ』, 「なかよしの家」保育園二十年のあゆみ編集委員会, 1987年～
- 『高校日本史』(A・B), 実教出版
- 1989年
- 『徳川盛世録』解説, 市岡正一著『徳川盛世録』(博闘社)復刻, 平凡社
- 1990年
- 「女・子ども」, 『日本都市史入門』(Ⅲ 人), 東京大学出版会, pp.208-209
- 1991年
- 「父母会は本当に要らないのか—保育所で考えたこと—」『ちば—教育と文化』26号, 千葉県教育文化センター編集出版委員会, pp.64-66
- 1992年
- 「江戸時代の道はきれいだったか」, 『朝日ジュニアブック 日本の歴史』, 朝日新聞社, pp.120-121
- 1993年
- 「民衆がささえた祭り」, 『日本歴史館』, 小学館
- 1994年
- 『歴史学事典』(1 交換と消費), (事典項目)「地方税」, 弘文堂
- 「一村立ち」の村の自画像」, 朝日百科『日本の歴史』別冊『歴史を読みなおす13 家・村・領主』, pp.63-68
- 「行列の作法」, 朝日百科『日本の歴史』別冊『歴史を読みなおす17 行列と見世物』, 朝日新聞社, pp.16-19
- 「百姓一揆の首謀者はなぜ逃亡できたのか」, 『日本の歴史を解く100話』, 文英堂, pp.63-68
- 1995年
- 「早川八郎左衛門」, 「立石孫一郎」, 『日本の歴史を解く100人』文英堂
- 1996年
- 「大岡さんの「最後の戦争小説」」(共著/宮崎勝美), 月報『大岡昇平全集』第13巻 月報16
- 1998年
- 「千葉・歴史の積層」, 『芝山国際野外アート展』報告集, pp.34-36
- 1999年
- 「池田先生のこと(池田嘉男委員を偲んで)」, 『千葉史学』35号, pp.10-12
- コラム「近世の女たちは酒を飲んだか」, 『歴博』第93号, 国立歴史民俗博物館, p.7
- コラム「イッキ禁止令」, 『歴博』第93号, 国立歴史民俗博物館, p.15
- 2000年
- 「天下祭りの世界」, 「行列」, 『歴博万華鏡』, 朝倉書店
- 「『これからの歴史系博物館』を報告して」, 『地方史研究』283, pp.6-10
- 「歴史の焦点 国立歴史民俗博物館」, 『歴史と地理』532, pp.61-68
- 「歴史系博物館と子どもの歴史学習との間—国立歴史民俗博物館の近世展示から考える—」, 『歴史地理教育』608, pp.28-35
- 「博物館紹介 ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真美術館(GEH)」, 『年報 都市史研究』8, pp.140-144
- 「国立歴史民俗博物館—三つの顔を持った博物館—」, 『歴史と地理』第531号, pp.61-68
- 「シンポジウム 近年の文化行政問題—地域から新ビジョンを考える 報告要旨・参加記」(共著/井上潤・寺島孝一ほか), 『地方史研究』50号(1), pp.1-23
- 2001年
- 『風流のまつり 長崎くんち』2000年度国立歴史民俗博物館民俗研究映像(ビデオ93分), (監修/福原敏男ほか)
-

2002年

- 『21世紀こども百科 歴史館』（監修），小学館
「歴史系博物館と教室の間—いわゆる「博学連携」を実現するために—」『じっきょう 地歴・公民科資料』
No.55, pp.6-11
「運営委員会三年目を迎えて」, 『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』101号, pp.1-2

2003年

- 『日本史文献事典』, (事典項目)「『近世の幕領行政と組合村』」, 「直轄県における組合村—惣代庄屋制について」, 「ハーバート・ノイマン『日本の兵士と農民』」, 弘文堂
「れきはくをかこうよ」, 『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』105号, pp.2-3
「歴博と友の会の「これから」について」, 『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』110号, pp.1-2
コラム「日本の歴史と文化」に関わる研究映像を外国に発信する」, 『歴博』第119号, 国立歴史民俗博物館, pp.16-17
「オーストラリアの博物館で考えたこと—アボリジニの展示と戦争の記録をめぐって—」, 『歴博』第118号, 国立歴史民俗博物館, pp.14-17
「国立歴史民俗博物館における子ども向け事業」, 『Museum ちば』千葉県博物館協会研究紀要35, pp.17-20
「〈歴史系〉博物館の可能性」『展示通信 歴史・災害・人間』11, pp.10-15 (西谷大・寺田匡宏編『歴史・災害・人間』下巻〈展示の文法〉編, 歴史民俗博物館振興会, 2003年に再録, pp.124-134)

2004年

- コラム「都市祭礼と「異邦人」—異文化表象研究の視点から—」, 『歴博』第122号, 国立歴史民俗博物館, p.13
「『古文書講座 初心者編』を終えて」, 『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』122号, p.3
「歴史展示と観客との間」, 『歴博共同研究・総研大学長プロジェクト合同公開研究会予稿集観客から博物館を見る—研究をどう見せるか—」, 国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学, pp.1-4
「巨大絵図分割撮影装置の試作」(共著:宮田公佳)『東京大学史料編纂所附属画像史料会席センター通信』第25号, pp.9-18
「巨大絵図・地図の現地調査方とデジタル化に関する研究(平成15年度研究助成成果報告 歴史)」, 『財団法人福武学術文化振興財団歴史学・地理学助成報告書2004年度』, pp.21-25
「集古会と水木要太郎」, 『共同研究「水木コレクションの形成過程とその史的意義」研究成果中間報告要旨集』, 国立歴史民俗博物館, pp.18-22

2005年

- 「近世社会と城下町祭礼—『まつり・祭・津まつり』を観て考えたこと—」, 『津市民文化』32号, 津市教育委員会事務局文化課, pp.28-29
「近世の大規模新田開発絵図に関する基礎研究プロジェクトの活動と成果について」(共著/井上聡)『東京大学史料編纂所附属画像史料会席センター通信』第31号, p.19
「高橋敏先生を送る」, 『国立歴史民俗博物館研究報告』第121集, pp.475-477
コラム「善隣友好外交と壬辰・丁酉倭乱との間」, 『歴博』第129号, 国立歴史民俗博物館, p.13
「行列から見える近世」, 『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』122号, pp.2-3,

2006年

- 「第3展示室がどのように変わるか?」, 『歴博』第138号, 国立歴史民俗博物館, pp.19-23
「『ユーラシアと日本:交流と表象』のシンポジウム開催にあたって」, 『「ユーラシアと日本:交流と表象」の現状と課題』, 人間文化研究機構, pp.6-9
「第4回歴史文化をめぐる地域連携協議会(1):「地域歴史遺産と市民を結ぶインターフェースの構築」(コメント)」『平成17年度 歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等と連携事業(4)』, 神戸大学文学部, pp.25-32
「『国民国家の比較的研究』の目的と意義」, 『国際シンポジウム 韓国における国民国家をめぐる研究状況と課題』, 人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館, pp.6-8

2007年

- 歴博対談 48「学びの風景」(上田信行氏と),『歴博』第145号,国立歴史民俗博物館, pp.6-11
 「企画展示第3展示室(近世)リニューアルの『秘話』(「悲話」?)」,『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』134号, pp.1-2
 「コメント このセッション(『第2セッション アジアと日本』)から学んだこと」,長田謙一監修『戦争と美術』,美術出版, pp.169-175
 「歴史系博物館で現在(いま)考えていること—国立歴史民俗博物館でのささやかな経験から—」,『歴史科学』190号, pp.26-32

2008年

- 「新しく変わる近世展示のみどころ」,『歴博』第147号,国立歴史民俗博物館, pp.28-29
 「新しい近世展示のみどころ」(共著/岩淵令治),『歴博』第149号,国立歴史民俗博物館, pp.6-11
 「歴博の近世展示に見る新しいスタイル(特集:博物館と研究)」『総研大ジャーナル』No.14, pp.14-17
 「国立歴史民俗博物館第3展示室(近世)のリニューアルを迎えて」,『歴史地理教育』728号, pp.84-89

2009年

- 「世界のなかの日本研究2 スイスで見たこと・考えたこと」『鴨東通信』No.76, pp.12-13
 「博物館展示のいま⑩ 大英博物館の新しい日本展示」『歴博』第153号, pp.28-29
 「歴史にタッチ!:博物館でのデジタルコンテンツ用情報のインターフェース」(共著/原田泰・佐藤優香),『デザイン学研究作品集』14(1), pp.46-49

2010年

- 「研究者紹介 私の近世史研究の原点」『歴博』第161号, pp.26-27
 「特集展示 旗本本多家資料の世界」,『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』151号, p.3
 「山本光正先生を送る」,『国立歴史民俗博物館研究報告』第158集, pp.305-307

2011年

- 「絵画資料の背景を読む楽しみ」,『歴博』第166号,国立歴史民俗博物館, pp.11-14
 「(コメント・全体討論) 歴史遺産を未来へ」『東北アジア研究センター報告』3号, pp.61-67・pp.70-96

2012年

- 「地域社会の歴史・文化資料を自分たちのものに」『文化財の虫菌害』No.63, pp.1-2
 「特集展示 雅楽を伝える—南都楽人辻家資料—」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』No.161, p.4
 「企画展示「行列にみる近世—武士と異国と祭礼と—」へのお誘い」,『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』163号, pp.1-2
 「展示を多くの人々に楽しく観ていただくために—千葉大学の新生ガイダンスの経験から—」,『千葉史学』61号, pp.97-99
 「カナダ文明博物館の特別展示「伝統と革新の国 日本」—外国で「日本」を展示するということ—」,『歴博』第171号,国立歴史民俗博物館, pp.24-25
 「行列にみる近世—武士と異国と祭礼と—」,歴史系総合誌『歴博』第174号, pp.24-25

2013年

- 「「行列」は観られなければならないという属性を持つ」,「有君之御方御下向御行列之図」,歴史系総合誌『歴博』第181号, p.1・pp.20-23

2014年

- 「総合展示 近世日本へのアプローチ」,「総合展示 国際社会のなかの近世日本」,「総合展示 ひとつもののながれ」,「総合展示 村からみえる近世」,「総合展示 寺子屋れきはく」,『国立歴史民俗博物館三十年史』,国立歴史民俗博物館, pp.206-209
 「平川南館長を送る」,『国立歴史民俗博物館研究報告』第186集, pp.373-376
 「「江戸図屏風」と行列」,『歴博』第185号,国立歴史民俗博物館, p.31
 「想いで食卓(9)」『月刊新松戸』2014年9月号, pp.4-5

2015年

- 「地域の自然・歴史・文化資料を残すために—歴史民俗系博物館にできること—」, 『博物館研究』平成27年2月号, 公益財団法人日本博物館協会, pp.4-5
- 「シンポジウムの成果と課題」, 人間文化研究機構主催 ボーfum・ルール大学共催 国際シンポジウム報告書『シーボルトが紹介したかった日本—欧米における日本関連コレクションを使った日本研究・日本展示を進めるために—」, 国立歴史民俗博物館, pp.197-202
- 「博物館や大学における「歴史資料」の保全と活用をめぐる現状と課題」, 『文化財防災体制についての国際比較研究』報告書, 科学研究費補助金基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」研究グループ(研究代表者・奥村弘:課題番号26220403), pp.50-54
- 「セッション4 今後の備え2 文化財関連団体の体制構築と連携【全国歴史民俗系博物館協議会】【パネルディスカッション】」『緊急保全活動・現況調査事業 研究会「これからの文化財防災—災害への備え」報告書』, pp.147-153

2016年

- 「18世紀の村をながめる」「近世の村の自画像」「近世の村の特徴」, 杉森哲也編『大学の日本史 3. 近世—教養から考える歴史へ』, 山川出版社, pp.213-241
- 「考古, 歴史, 民俗学の成果から新たな日本の歴史と文化を読み解く」, 総合誌『地域人』8, 大正大学出版会, pp.22-25

2017年

- 「現地の古文書調査から学んだこと」, 『中学校教育フォーラム』2017冬号, p.1
- 「海外の日本コレクションを守り, 日本研究者を育てる」, 『国立歴史民俗博物館 研究者リリース16』
- 「総合資料学の創成にむけて」, 国立歴史民俗博物館編『〈総合資料学〉の挑戦—異分野融合研究の最前線』(共著), 吉川弘文館, pp.7-12
- 平成29年佐倉市成人式記念品冊子「ワタシカシ 正義と不正義の感情のはざま」

2018年

- 講演要旨「ミュージアムと未来をつくる—ミュージアムの果たす役割と可能性—」, Newsletter【噴火湾文化】第12号, 伊達市噴火湾文化研究所, pp.3-5
- 「地域社会の歴史・文化自然資源を自分たちのものに」, 『文化財防災ネットワーク推進事業 地域の文化財防災に関する研究集会報告集I「第4回全国史料ネット研究交流集会」』, 独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室, pp.12-28

2019年

- 「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために」, 『長崎の岬 日本と世界はここで交わった シンポジウム「長崎県庁跡地を考える」報告書』, 長崎文献社, pp.80-103
- 「講演 歴史系博物館の可能性: 国立歴史民俗博物館での経験から」, 『市大日本史』22号, pp.1-24
- 「友の会ニュース200号刊行をお祝いして」, 『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』200号, pp.1-2

Ⅶ 展示・展示図録

〈展示〉

1. 第3展示室リニューアル(総括代表), 国立歴史民俗博物館, 2008年3月18日公開
2. 国立歴史民俗博物館企画展示『収集家100年の軌跡—水木コレクションのすべて—』, 1998年10月20日-12月6日
3. 国立歴史民俗博物館くらしの植物苑特別企画『伝統の朝顔』, 1999年8月3日-9月5日
4. 国立歴史民俗博物館企画展示『地鳴り山鳴り—民衆のたたかい300年—』, 2000年3月22日-5月21日
5. 国際展示特別企画『日本の伝統朝顔』, 2000年7月28日-8月27日
6. 国立歴史民俗博物館特別企画『オランダへわたった大工道具』, 2000年8月1日-9月3日
7. 国立歴史民俗博物館くらしの植物苑特別企画『伝統の朝顔』, 2000年8月1日-9月3日
8. 国立歴史民俗博物館企画展示『天下統一と城』, 2000年10月3日-11月26日

-
9. 国立歴史民俗博物館企画展示『異界万華鏡—あの世・妖怪・占い—』, 2001年7月17日-9月2日
 10. 国立歴史民俗博物館特別企画『伝統の朝顔Ⅱ』, 2001年8月1日-9月9日
 11. 国立歴史民俗博物館くらしの植物苑特別企画『季節の伝統植物』, 2002年
『—春: 伝統のサクラソウ』, 4月23日-5月6日
『—夏: ウリとヒョウタン』, 7月23日-9月29日
『—秋: 伝統の古典菊』, 10月29日-11月10日
『—冬: 冬の華・サザンカ』, 11月14日-11月24日
 12. 国立歴史民俗博物館くらしの植物苑特別企画『伝統の朝顔』, 2002年8月6日-25日
 13. 国立歴史民俗博物館企画展示『平成14年度新収資料の公開』, 2003年1月15日-2月16日
 14. 国立歴史民俗博物館企画展示『民衆文化とつくられたヒーローたち—アウトローの幕末維新史』, 2004年3月16日-6月6日
 15. 国立歴史民俗博物館企画展示『武士とはなにか』, 2010年10月26日-12月26日
 16. 国立歴史民俗博物館企画展示『行列にみる近世—武士と異国と祭礼と—』(展示代表), 2012年10月16日-12月9日
 17. 国立歴史民俗博物館特集展示『江戸図屏風と行列』, 2014年8月5日-9月15日
 18. 国立歴史民俗博物館企画展示『ドイツと日本を結ぶもの—日独修好150年の歴史—』, 2015年7月7日-9月6日

〈展示図録〉

1. 国立歴史民俗博物館展示図録『収集家百年の軌跡—水木コレクションのすべて—』(分担執筆), pp.6-8「水木要太郎と水木コレクションの概要」, pp.105-110「水木コレクションを読み解くために」
 2. 国立歴史民俗博物館展示図録『地鳴り山鳴り—民衆のたたかい300年—』解説(分担執筆), pp.9-10「描かれた一揆—天保11・12年の庄内藩「三方領知替え」反対一揆—」, pp.10-26「『夢の浮橋』を読む」, 1999年
 3. 国立歴史民俗博物館展示図録『西のみやこ 東のみやこ—描かれた中・近世都市—』(分担執筆) pp.94-99「第3部1 長崎」, pp.114-116「『丸山遊女』と『異国人物』」, 国立歴史民俗博物館, 2007年
 4. 国立歴史民俗博物館展示図録『錦絵はいかにつくられたか』, pp.34-39「小金原の鹿狩り」, 2009年
 5. 国立歴史民俗博物館展示図録『武士とはなにか』, pp.128-131「IV章 文武両道」川路聖謨, pp.154-155「箱館戦争」, pp.156-169「エピローグ 武士の消滅と新しい「武士道」」, 2010年
 6. 国立歴史民俗博物館展示図録『侯爵家のアルバム—孝允から幸一にいたる木戸家写真資料—』, p.37「コラム 写真の背後にあるもの④ 毛利敬親・元徳父子と木戸孝允」, 2011年
 7. 国立歴史民俗博物館展示図録『行列にみる近世—武士と異国と祭礼と—』(編著), p.244, 2012年
 8. 国立歴史民俗博物館展示図録『歴史にみる震災』, pp.85-90「第2章 近代の震災 プロローグ 幕末・明治の震災」, 2014年
 9. 国立歴史民俗博物館展示図録『ドイツと日本を結ぶもの—日独修好150年の歴史—』, p.209, 2015年
 10. 国立歴史民俗博物館展示図録『ドイツと日本を結ぶもの—日独修好150年の歴史—』別冊, p.126, 2015年
 11. 国立歴史民俗博物館展示図録『よみがえれ! シーボルトの日本博物館』(分担執筆), pp.181-183「コラム13 企画展示「よみがえれ! シーボルトの日本博物館」ができるまで」, 2016年
 12. 国立歴史民俗博物館展示図録ハンゲル博物館展示図録, p.2「『韓・中・日 書体特別展』開会にあたって」(分担執筆), 2017年
 13. 国立歴史民俗博物館展示図録『昆布とミヨク—潮香るくらしの日韓比較文化誌』(分担執筆), pp.68-69「なぜコンブは沖縄料理で使われるようになったのか?」, 2020年
-

Ⅷ 学会発表・講演・報告・シンポジウム等

1982年

「直轄県における組合村—惣代庄屋制について」1982年度歴史学研究会大会近世史部会報告, 5月, 千葉大学

1985年

「盛砂・蒔砂・飾り手桶・箒—近世における「馳走」の一つとして—」, 1985年史学会大会報告, 11月, 東京大学

1991年

「幕末維新时期における『地域社会』と『かわた』村」, 1991年度部落問題研究所研究集会報告, 10月, 立命館大学

1995年

「人物」をどう教えるか—教員養成系学部での社会科概説(小学校日本史)の実践から、「人物史」学習の持つ意味について考える」, 1995年度「歴史科学と教育」研究会大会報告, 3月21日, 千葉大学

1997年

「千葉・歴史の積層」, 1997年度国際野外アート展, シンポジウム報告, 5月3日, 芝山観音経寺

1998年

「高札から見える近世の村と身分」, 大阪人権博物館企画展示記念講演, 5月16日, 大阪人権博物館

「水木コレクションから何をよむか」, 第179回歴博講演会, 11月14日

「歴博を100倍楽しむ方法—展示で「歴史」を見る楽しみ— 近世展示(17世紀～19世紀)を中心に」, 千葉大学文学部史学科・教育学部社会科歴博見学, (1998～2019年まで継続, 2017年を除く), 国立歴史民俗博物館

1999年

「歴史系博物館のあり方をめぐって」, 第3回新大阪市立博物館・考古資料センターを考えるシンポジウム, 5月8日, 桃山学院大学

「これからの歴史系博物館」, 地方史研究協議会主催シンポジウム『近年の文化行政問題—地域から新ビジョンを考える—』, 10月2日, 明治大学

2000年

「『夢の浮橋』を読む」, 第3回歴博フォーラム「地鳴り山鳴り」, 4月22日, 国立歴史民俗博物館

「検見川・幕張・稲毛」, 千葉大学ART PROJECT 検見川送信所2000, 11月23日, 千葉市立検見川小学校

「犢橋村と村方騒動—千葉郡犢橋村稲干場一件」, 2000年度花見川市民大学, 12月16日, 千葉市幕張公民館

2001年

「巡回展示「弁当からミックスプレートへ」をめぐって」, 「科研申請の経過・目的・研究方法について」, 「韓国の博物館調査報告」文部省科学研究費補助金・基盤(B)(2)「生涯学習時代における博物館教育・教育員養成および歴史展示に関する総合的研究」研究会, 3月2日, 国立歴史民俗博物館

「館蔵の伊能家資料(茂左衛門家)から, どのように展示できるか—楫取魚彦・伊能節軒を中心として—」, 国立歴史民俗博物館基幹研究「日本における都市生活史の研究—B都市の地域特性の形成と展開過程」展示構想検討会, 3月3-4日, 国立歴史民俗博物館

「博物館で歴史教育を考える」, 2000年度関東歴史教育研究協議会神奈川大会歴史分科会報告, 3月12日, 神奈川教育会館

「博物館で歴史教育を考える」, 千葉県高校歴史研究会報告, 6月27日, 千葉県立中央博物館

「花見川今昔Ⅱ—開校にあたって」, 2001年度花見川市民大学, 7月7日, 千葉市幕張公民館

「牧と牧士」, 千葉市史研究講座, 9月29日, 千葉市美術館

「『夢の浮橋』とゆざ」, 山形県遊佐町町民講座, 11月11日, 遊佐町中央公民館

2002年

「博物館における調査・研究・展示とイメージ—日本近世史研究の立場から—」, 2002年度日本写真学会サマーセミナー, 8月, 総合研究大学院大学

「開校にあたって一地域の歴史を学ぶとは―」, 2002年花見川市民大学, 10月5日, 千葉市幕張公民館
 「学校週5日制のもとでの公共機関と学校の連携と役割」, 香取・東総・印旛地区公立小中学校教頭会第3
 ブロック研修会, 11月22日, 国立歴史民俗博物館

2003年

「国立歴史民俗博物館における博物館教育の試み」, 歴博国際シンポジウム第7回『歴史展示を考える―民
 族・戦争・教育―』, 11月15-16日, 国立歴史民俗博物館

2004年

「村へ来る人・村から出る人」, 千葉市史研究講座, 9月4日, 千葉市美術館

「近世社会と城下町祭礼―『まつり・祭・津まつり』を観て考えたこと―」, 『まつり・祭・津まつり展
 シンポジウム』, 9月23日, アスト津 アストホール

2005年

「近世の村と義民」, 千葉市演劇を観る会, 7月8日, 千葉市市民会館

「近世の村と組合村」, 千葉市史研究講座, 9月9日, 千葉市美術館

「長崎くんちについて」, 9月16日, 長崎歴史文化博物館

2006年

「国立歴史民俗博物館の総合展示リニューアルで考えたこと」, 1月15日, 貨幣博物館
 第57回歴博フォーラム「国際社会の中の近世日本」, 12月17日, 国立歴史民俗博物館

2007年

「第3展示室リニューアルで何が変わる」, 千葉県歴史教育者協議会, 6月24日, 千葉市コミュニティセ
 ンター

「Representation of History in Museum Displays and the Autonomy of Audience」, 国際女性史研究会,
 8月10日, St. Kliment Ohridski University of Sofia 趣旨説明・討論,

「主旨説明」, 第61回歴博フォーラム「ひととものながれ・村からみえる『近代』」, 10月20日

2008年

国際シンポジウム『いまなぜ国民国家か―国民国家の過去・現在・未来―』, 3月1-2日

「国立歴史民俗博物館の歴史展示と「学習支援」活動の現状」5月17日

「[大学のための歴博利用の手引き]考」7月19日

2009年

「千葉県域の近世の特色と国立歴史民俗博物館の新しい近世展示―近世史（江戸時代の歴史）はもっとお
 もしろい―」, 毎日新聞企業人大学・2009年4月講座, 5月27日, ホテル・ザ・マンハッタン

「歴史博物館の歴史展示と歴史認識―画像資料を中心に―」, 国際シンポジウム『「韓国併合」100年を問
 う』, 8月8日, 東京大学弥生講堂一条ホール

「博物館で「異文化」を展示するということ―国立歴史民俗博物館のささやかな試みから―」, 日中博物館
 交流フォーラム『交流の歴史と現在をつなぐ～異文化理解の展示を考える～』, 11月22日, 長崎歴史文
 化博物館

「国立歴史民俗博物館の国際交流について」, 総研大国際セミナー, 12月15-17日, 総合研究大学院大学,
 湘南国際村センター

2011年

「The reality of Samurai in the Edo Period and the Contemporary Image of Samurai」, 10月6日, トロ
 ント日本文化センター

「趣旨説明」, 『第5回シーボルト・コレクション国際会議』, 10月28-29日, 滋賀県立琵琶湖博物館・大
 津市民会館

「海外で江戸時代の技術・生活文化を展示する試み―趣旨説明をかねて―」, 国際シンポジウム『外国で「日
 本」を展示するということ―カナダ文明博物館（オタワ）の特別展示「伝統と革新の国 日本」をめぐっ
 て―』, 12月17日, 国立歴史民俗博物館

2012年

「災害時における歴史文化資料の救済と保全—地域の歴史・文化資料とどのように向き合うか—」, 第34回文化財の虫菌害・保存対策研修会, 6月19日, 国立オリンピック記念青少年総合センター

2013年

「江戸の武士たち—「描かれた武士たち」から考える—」, 国際交流基金, 1月23日, ボワンタキャリエール博物館

「江戸の武士たち—「描かれた武士たち」から考える—」, 国際交流基金, 1月24日, カナダ文明博物館

「江戸の武士たち—「描かれた武士たち」から考える—」, 国際交流基金, 1月26日, トロント日本文化センター

「行列からみる近世」, ハワイ大学, 2月10日, Korea Auditorium

「江戸幕府直轄地の研究(「幕領」の支配構造)」, 国立歴史民俗博物館友の会 歴史学講座, 4月19日, 国立歴史民俗博物館

「企画展示『行列にみる近世』の舞台裏—行列を追っかける—」, 第354回歴博講演会, 6月8日, 国立歴史民俗博物館

2014年

「総括と今後の課題」, ボーフム・ルール大学国際シンポジウム『シーボルトが紹介したかった日本—欧米における日本関連コレクションを使った日本研究・日本展示を進めるために—』, 2月12日, ボーフム・ルール大学 ルール大学国際会合センター

「歴博を100倍楽しむ方法—展示で「歴史」を見る楽しみ—」, 11月6日, 財務省関東財務局千葉財務事務所

講座「『行列の時代』としての近世」, 横浜市歴史博物館講座, 11月15日, 横浜市歴史博物館

「多様化する博物館—対話と連携で未来を探る—」, 第62回全国博物館大会, 11月19日, 三重県総合文化センター

「歴博の楽しみ方 来館することもたちのために 国立歴史民俗博物館のささやかな来館者対応のこころみ」, 佐倉校長会, 11月25日, 国立歴史民俗博物館

「これからの文化財防災—災害への備え—」, 東京文化財研究所セミナー, 12月4日, 東京文化財研究所

「『武士』から江戸時代を考える」, 国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会, 12月6日, 国立歴史民俗博物館

「これからの博物館で必要なこと」, 佐倉市民カレッジ, 12月10日, 国立歴史民俗博物館

2015年

「企画展示「ドイツと日本を結ぶもの—一日独150年の歴史—」—国立歴史民俗博物館(7月7日-9月6日)の展示を振り返る—」, 「国際都市・長崎からみたドイツ—もうひとつの交流史」オープニング記念講演会, 9月19日, 長崎歴史文化博物館

「History of Japanese-German Joint Scientific Endeavors— the 20th Anniversary of the German JSPS Alumni Association— (日本学術交流シンポジウムを共催するにあたって)」, ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会20周年記念学術大会, 9月30日, 国立歴史民俗博物館

「稲葉継陽・今村直樹編『日本近世の領国地域社会—熊本藩政の成立・改革・展開—』を読んで」, 熊本大学拠点形成研究A「永青文庫細川家資料の総合的解析による歴史社会・文化研究拠点の形成」書評研究会, 10月31日, 熊本大学

「『江戸』を描いた画像史料の楽しみ方」, 11月3日, 北海道博物館

「安政の大地震(1855年)と鯨絵」, 国際学術ワークショップ「東亜地震歴史と物質文化展示(東アジアにおける地震の歴史と物質文化の展示)」, 11月22日, 台湾国立台湾歴史博物館

「国立歴史民俗博物館の魅力—歴博でアクティブ・ラーニング—」, 11月27日, 千葉大学

「『村と村人』から江戸時代を考える」, 国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会, 11月28日, 国立歴史民俗博物館

「これからの博物館で必要なこと」, 佐倉市民カレッジ, 12月10日, 国立歴史民俗博物館

「行列からみた近世」, 明治大学博物館友の会 近世講演会, 12月19日, 明治大学博物館
 「博物館や大学における「歴史資料」の保全と活用をめぐる現状と課題」, 国際会議『文化財防災体制についての国際比較研究・神戸会議』(共催: 科学研究費補助金基板研究(S)「災害文化形成を担う 地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて—」(研究代表者・奥村弘: 課題番号 26220403)・東北大学災害科学国際研究所), 10月22-23日, 神戸大学
 「安政の大地震と鯨絵」, 国際学術ワークショップ「東アジアにおける地震の歴史と物質文化の展示」, 11月22日, 台湾国立台湾歴史博物館

2016年

「江戸天下まつりと長崎くんち」, 江戸博カルチャー講演, 1月21日, 江戸東京博物館
 「武士とは何か 『武士』から江戸時代を考える」, 5月10日, 明治大学
 「国立歴史民俗博物館の歴史展示と「学習支援」活動の現状」, 5月20日
 「Reflecting on the Exhibition “150 Years of Friendship Between Germany and Japan”: Issues in Presenting Chapters of Japanese History 「独日交流150年の歴史」の展示で考えたこと一負の歴史を展示するということ—」, ドイツ歴史博物館, 6月1日
 「牧をめぐる人びと—牧士と野付き村々の人びと—」, 白井市文化財講演会, 6月25日, 白井市文化会館
 「歴博の展示から見る 江戸時代」, こどものあしたプロジェクト「国立歴史民俗博物館」で江戸の生活文化を学ぼう!」, 7月20日, 国立歴史民俗博物館
 「先生のための歴博講座」開催にあたって—国立歴史民俗博物館の歴史展示と「学習支援」活動の現状—」
 8月9-10日, 国立歴史民俗博物館
 「国際シーボルト・コレクション会議の意義とシーボルトコレクションの魅力」, 第10回国際シーボルトコレクション 会議 2016 in Nagasaki, 10月22日, 長崎ブリックホール
 「博物館における歴史展示の可能性—歴史的共感能力を鍛えるために」, 第16回日韓歴史家会議, 11月5日, 都市センター ホテル
 「総括」, 地域歴史文化大学フォーラム~地域歴史文化継承における大学と研究機関の役割~広域災害への備えと人材育成~, 11月12日, 神戸大学文学部
 「国立歴史民俗博物館の重要事業紹介と交流協力方案」, 11月24日, 大韓民国国立ハンゲル博物館
 「江戸の街を歩いてみよう—画像史料の楽しみ方=博物館の楽しみ方—」, 平成28年度印旛地区公立高等学校 PTA 合同研修会, 12月2日, 国立歴史民俗博物館
 「博物館における歴史展示の可能性—国立歴史民俗博物館における「在日」展示を事例として—」, 在日韓人歴史資料館土曜セミナー100回記念開館11周年記念シンポジウム, 12月3日, 在日韓人歴史資料館

2017年

「『町人たちの祭り』から江戸時代を考える」, 国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会, 1月7日, 国立歴史民俗博物館
 「「房総の牧」を考える—その魅力の発信と日本遺産申請をめざして—」, 酒々井町フォーラム, 2月5日, プリミエール酒々井
 「博物館で歴史を読み解く—歴博で「歴史」を考える— 総合資料学「入門」」, 総合資料学集中講義, 2月13日, 千葉大学
 「近世社会の特質について—今, 近世社会からどのようなことを学ぶことができるか?—」, 佐倉市・歴博連携協定締結1周年記念講演, 3月5日, 国立歴史民俗博物館
 「Introducing the National Museum of Japanese History」: Opportunities for Research and Collaboration, ダーラム大学日本学講座, 3月15日, イギリス・ダーラム大学
 パネル・ディスカッション:「ICOM 京都大会に向けて」, 国際博物館の日 記念シンポジウム, 5月21日, 京都国立博物館
 「ミュージアムと未来をつくる—ミュージアムの果たす役割と可能性—」だて歴史文化ミュージアム スタートアップ講演会, 7月9日, だて歴史の杜カルチャー センターあけぼの
 「地域の歴史を自分たちのものへ」, 第5回地域史惣寄合, 7月29日, 鎌ヶ谷市中央公民館(きらり鎌ヶ

谷市民会館内)

「村から見た近世の八千代」, 市制施行50周年記念事業「八千代三万年の足跡」, 10月15日, 八千代市郷土資料館

解説会「『江戸図屏風』をよむ」, 東京国際空港ターミナル株式会社, 10月25日, 羽田空港国際線ターミナル「歴博を100倍楽しむ方法」, 佐倉市民カレッジ, 12月5日, 国立歴史民俗博物館

「What made the Meiji Restoration possible? 日本の近代化: 明治維新はなぜ可能だったか」, The Background to Japan's Modernization (講演会), 12月10日, Kelvingrove Art Gallery and Museum, Glasgow

2018年

「地域社会の歴史・文化・自然資源を自分たちのものに」, 第4回全国史料ネット研究交流集会, 1月20日, ノートルダム清心女子大学

「『周縁の身分の人々』から江戸時代を考える」, 国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会, 2月3日, 国立歴史民俗博物館

「在外日本関連資料調査の現状と課題—シーボルト・コレクションを中心に」, 千葉県日独協会2018年新春講演会, 2月10日, 船橋市中央公民館

「歴史学とフィールド 地域の歴史・文化・自然資源を自分たちのものにするために」, 台北芸術大学連続セミナー「博物館の歴史学」第5回, 9月21日, 国立台湾博物館

「歴史系博物館の可能性—国立歴史民俗博物館での経験から—」, 大阪市大日本史学会第21回大会, 5月12日, 大阪市立大学 学術情報総合センター文化交流室

「National Museum of Japanese History and Illustrated Screen of Edo」, National Museum Cardiff 友の会, 6月16日, National Museum Cardiff

「『江戸図屏風』をよむ—17世紀の江戸を歩く—」, 千葉大学経済人倶楽部総会, 6月26日, 乃木会館

「近世の「馳走」と「キヨメ」—「道をつくる」ことの社会的背景—」, 花王株式会社国立歴史民俗博物館産学共同研究「清潔と洗浄をめぐる総合的歴史文化研究」第3回研究会, 8月2日, 国立歴史民俗博物館

「幕末維新の民衆史」, 幕末維新6講座 第5回, 9月15日, 高知県立高知城歴史博物館1階ホール

「『明治維新』の歴史的前提—19世紀を通じた「日本文化」の再発見—」, 第15回奈良県宗教者フォーラム「日本のこころと宗教の役割 明治維新から150年—宗教・文化政策を考える」, 9月29日, まほろば会館(薬師寺)

「歴史博物館の可能性—歴史と向き合う・歴史から学ぶ—」, 人文研アカデミー2018『博物館と文化財の危機—その商品化, 観光化を考える』, 11月17日, 京都大学人文科学研究所本館4階大会議室

「歴博を百倍楽しむ方法」, 日本青年国際交流機構分科会, 12月1日, ウィシュトンホテル・ユーカーリ

「これからの博物館で必要なこと—歴博を楽しむ—」, 佐倉市民カレッジ, 12月12日, 国立歴史民俗博物館

2019年

「日本の近代化の背景—「明治維新」は何故可能だったのか—」, 『明治150年フォーラム』, 1月8日, シンガポール国立大学

「近世の道はきれいだったか」, 国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会, 2018年1月26日, 国立歴史民俗博物館

「歴史から何を学ぶことができるか?—江戸時代との対話—」, 地球システム・倫理学会研究例会, 2月16日, 麗澤大学東京研究センター

「National Museum of Japanese History」, 2月27日, Katholieke Universiteit Leuven

「『歴史と向き合う』ということ」, 宮城歴史科学研究会 歴史学入門講座, 5月18日, 東北学院大学土樋キャンパス

「千葉の豊かな歴史と文化を将来世代に 歴博で今取り組んでいること これまでに私が千葉県民として取り組んできたこと」, 「教育立県ちば」を実現する有識者会議, 5月30日, TKP ガーデンシティ千葉

「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために—長崎の歴史遺産を自分たちのものに—」, シンポジウム「長崎県庁跡地を考える 長崎の岬—日本と世界はここで交わった」, 6月2日, メルカ築町5階プラザホール

「歴博を100倍楽しむ方法―「歴史」と対話する楽しさ― 近世展示（17世紀～19世紀）を中心に」, 大人の休日倶楽部, 6月27日, 国立歴史民俗博物館

「特別講演会 ―江戸図屏風を楽しむ―」, 第17回「お江の会」, 8月8日, ギンザシックス11階オープンハウスサロン

「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために」, 長崎県議会総務委員会, 7月5日, 長崎県議会

「豊かな長崎の歴史と文化を未来世代に伝えるために」, 長崎県議会文教委員会, 9月25日, 長崎県議会

「自然災害で被災した地域歴史文化資料の救済と活用」(天野真志特任准教授と連名報告), シンポジウム

「グローバル時代における人文学の日越協力」, 11月12日, ベトナム国家大学ハノイ校・人文社会科学大学

「近世城下町における祭礼行列の特色―「行列の時代」である近世社会との関わりで―」, 令和元年度 大洲八幡神社祭礼調査報告会(シンポジウム), 11月17日, 国立大洲青少年交流の家2階大ホール

「幕末・維新期の民衆運動」, 国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会, 12月15日, 国立歴史民俗博物館

2020年

「「行列」から見た江戸時代」, 国際交流基金ブダペスト日本文化センター講演会, 2月13日, ブダペスト日本文化センター

IX 新聞・マスメディア等

- ・毎日小学生新聞 歴史の時間 25 2005年9月23日
- ・千葉日報 「被災資料」保護へスクラム 歴史ネット, きょう発足」, 2012年3月3日
- ・朝日新聞千葉版「民間歴史資料, 被災から救え 研究者・教員・行政関係者らネットワーク」, 2012年3月11日
- ・別冊!月刊新松戸(ブログ記事), 2014年9月1日
- ・日本経済新聞「シーボルト」, 2014年10月9日
- ・千葉日報「歴史民俗系博物館の役割」, 2015年3月1日
- ・しんぶん赤旗 国立歴史民俗博物館の資料展示「ドイツと日本を結ぶもの」, 2015年8月12日
- ・NBCラジオ「あの人この歌ああ人生」それいけカープ, 2015年9月7日
- ・BSフジ「八木亜希子のおしゃべりミュージアム」, 2015年9月26日
- ・長崎新聞「長崎からみたドイツ展 親交の歴史記す 350点」, 2015年10月6日
- ・南日本新聞「書評 描かれた行列」, 2015年12月12日
- ・日本経済新聞「名城三都物語 下 ―江戸」, 2016年4月3日
- ・TOKYO MX 「アートステージ」, 2016年6月11日
- ・千葉日報「地域で「資源の活用を」」(ちばオピニオン), 2017年2月5日
- ・千葉日報 「「房総の牧」魅力発信 酒々井でフォーラム」, 2017年2月6日
- ・三重テレビ「伊勢参りに関する展示解説」, ええじゃないか, 2017年2月9日
- ・台湾文化新聞 WEB ニュース「地震帯上の共同體」特展回顧, 2017年6月27日
- ・毎日新聞「ふくおか探索ブックエンド&図書館より「描かれた行列～武士・異国・祭礼」久留島浩編」
2017年11月17日
- ・京都新聞「ソフィア京都新聞文化会議「未来志向の博物館を求めて 久留島浩氏」」, 2017年12月15日
- ・朝日新聞 夕刊「シンポジウム「博物館と文化財の危機」久留島館長」, 2018年11月14日